



PROGRAMMABLE BASS DRIVER DI

BASS DRIVER DI DELUXE

USER GUIDE

1 はじめに

この度は TECH 21 製品をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。
本製品の性能を最大限に引き出すためにご使用前にかならず内容をよくお読みください。
SansAmp Programmable Bass Driver DI、SansAmp Bass Driver Deluxe は、100%アナログ信号経路の暖かなサウンドと、デジタルプログラミングの利便性を、非常にシンプルで使いやすいストンプボックスに詰め込みました。
当社の独自技術は、真空管アンプ特有の豊かで自然な倍音と甘いオーバードライブサウンドを、たとえ小音量でも再現します。
SansAmp はポータブルでプログラム可能なペダルでプロフェッショナルなダイナミクス、反応性、そして音質を提供します。

その扱いやすさから、演奏中であってもその場で変更が可能です。
複雑な計算式や数値計算を学ぶ必要はないので、あなたの創造性の赴くままに操作が可能です。
独立したフットスイッチは、暖かいビンテージから非常にファットなオーバードライブサウンドまで、再現可能。
カスタムアクチュエータはチャンネル間のスムーズな切り替えを実現します。

2 使用上の注意

- ◆本機をデジタル製品と合わせて比較する際は 別々に実行し、それぞれをプラグインおよびプラグアウトしてください。デジタルプリアンプ / プロセッサと直列にリンクされている場合、デジタルプリアンプ / プロセッサが行うアナログからデジタル、デジタルからアナログへの変換はユニットのサウンドに影響を与えます。
- ◆本機のコントロールは異常に緻密なセッティングを可能にするため細かく設定されています。最大の効果を求める場合でも、すべてを最大に設定する必要はありません。たとえば、サウンドを明るくしたい場合は Treble を最大にするのではなく、まず低音を下げてください。トーンコントロールは、ベースアンプにある EQ カーブを補正するのにも役立ちます。アンプとの最適な設定を見つけるには、12 時のトーンコントロールから始めて、必要に応じてカットまたはブーストします。アンプは大きく異なるため、ご希望のサウンドを実現するには SansAmp で根本的な EQ 設定を変更する必要があるかもしれません。
- ◆プリセットのレベルとトーンは、「典型的な」ベース本体とキャビネットを使って設定されたもので、目安として設定されています。使用環境によって特にレベルコントロールには調節が必要な場合があります。例えば、高出力なベースの場合、歪んでしまったり、低出力なベースの場合はレベルを高く設定する必要があるかもしれません。またキャビネットのサイズによっても設定を変更する必要があります。
- ◆本機の入力とアンプのスピーカー出力を絶対に接続しないで下さい。故障の原因になります。

3 接続

ベースアンプとの接続：

SansAmp の出力を直接パワーアンプ INPUT または「エフェクトリターン」に接続します。
これによりアンプのプリアンプ部をスルーして本機でコントロール可能です。

注意：

ベース本体のボリュームが 0 にしてから接続してください。
アンプをオンにし、それからゆっくりと本体の音量を上げます。全体的に大きすぎる場合は、1/4" Out Boost スイッチがオフ（上）になっていることを確認してから、それに従ってプリセットを編集します。音量が不足している場合は、1/4" Out Boost スイッチを押し込んで 10dB を追加します。
SansAmp をアンプのフロント入力（メインの XLR 入力端子）に接続することもできますが、アンプの入力が過負荷にならないように、SansAmp のレベルを必ずユニティゲイン（出力レベルが本機の ON/OFF 時でほぼ同じ状態）に近づけてください。
フロント入力を使用するときにアンプを設定するためのヒント：

1. 低ゲインチャンネル入力に接続します。
2. Bright スイッチをオフにします。
3. プレゼンスコントロール（該当する場合）を 12 時以下に設定します。
4. トーンコントロールをできるだけフラットに設定します。

ダイレクトにレコーディングする：

ミキサー / レコーダーの入力に直接接続して、SansAmp のオンボードサウンドを使用することができます。ミキサー / レコーダーのようなフルレンジシステムでは幅広い周波数を録音 / 再生が可能です。SansAmp の EQ 設定を調節してベストなサウンドを見つけてください。

4 入出力

電源を入れる順番について：

本機の電源を最初にオンにし、最後にオフにします。機器を接続または切断するときは、スピーカーを損傷する可能性のある「ポップ」を防ぐために、プラグの抜き差しを行う前に、必ずミキシングボードをミュートにするかアンプの音量を完全に下げてください。

注意：絶対にアンプのスピーカー・アウトから本機の入力に直接接続しないで下さい。アンプや本機が故障する恐れがあります。

入力レベルについて：

本機はベース本体、ディストーションペダルのアウトプットなど、インストゥルメントレベルのインプット信号を入力するように設計されています。想定の入力信号レベルはおよそ -10dB / 250mV です。(一般的なエレキギターに近い数値)

注意：高出力なピックアップは本機のゲイン構造を増加させます。

IN A (MAIN) [DELUXE のみ]：

1/4" 1MΩ、インストゥルメントレベル。1 つだけ楽器を使用するときは、この入力を使用してください。本端子はバッテリー使用時のスイッチ・ジャックとなりますので、プラグがささっている状態では常にバッテリーが消耗されます。バッテリーの消耗を防ぐため、本機を使用していないときはプラグを抜いてください。

IN B [DELUXE のみ]：

1/4" 1MΩ、インストゥルメントレベル。2 つ目の楽器を使用するときは、この入力を使用してください。

PARALLEL OUTPUT [DELUXE のみ]：

1/4" アンバランスバッファード出力。入力された信号は、EQ やエフェクトがかかることなく出力されます。

1/4" フォン入力：

1/4" 1MΩ、インストゥルメントレベル。また、プラグが入力されると自動で電源を ON します。バッテリーの消耗を防ぐため、本機を使用していないときはプラグを抜いてください。

XLR 出力 (Di アウト)：

バランスド 600Ω 出力。EQ やエフェクトのかかった、またはバイパスされた信号をミキサーやレコーダーに送信します。

XLR OUT PAD スイッチ：

さまざまな機器に出力を合わせるための -20dB パッド。アップポジション (■) では、出力は 0dB、ダウンポジション (▲) では、出力は -20dB です。

1/4" フォン出力：

アンバランスド 1KΩ 出力。

EQ やエフェクトのかかった、バイパスされた信号をベースアンプまたはパワーアンプに送ります。

1/4" Out Boost スイッチ：

さまざまな機器に出力を合わせるための +10dB パッド。アップポジション (■) では、出力は 0dB、ダウンポジション (▲) では、出力は +10dB です。

5 ファンタム電源

現在、多くのミキサーは XLR 入力にファンタム電源機能を搭載しています。本機は XLR 出力 (DI アウト) を使用した際、ファンタム電源供給を受けて作動させることができます。ファンタム電源供給時本機は電源アダプターを使用することなく動作ができます。電源は最低 24V ファンタム電源ですが、ヘッドルームを最適化し、LED を点灯させるには、48V ファンタム電源を推奨します。

PHANTOM & GROUND CONNECT スイッチ：

このスイッチを ON にする (▲) とグラウンドが接続され、XLR 出力からファンタム電源の供給を受けることができます。また、このスイッチを OFF にする (■) と本機のグラウンドはカットされた状態になり、接続されているミキサー等のグラウンドに接続されていない状態になります。

ミキサーにのみ入力する場合：

ベースを本機に接続して XLR Output をミキサーに接続している場合 (そして他のアース機器が接続されていない場合)、アースを接続するにはスイッチを押し込みファンタム電源を ON にする必要があります。

ミキサーとベースアンプに入力する場合：

XLR を経由してミキサーに接続、1/4" フォン出力を使ってベースアンプ (独自の AC アース付き) に接続する場合は、スイッチを「グラウンドリフト」モード用の位置 (■) に設定する必要があります。スイッチが ON/OFF いずれの位置でも、ノイズやバズ音がした場合は、接続している AC コンセントに問題がある可能性があります。

※ビンテージ機器を使用する際は、ノイズ対策をしっかりと行ってください。ビンテージ機器によるノイズの影響は全ての機材に影響する場合があります。

※ファンタム電源を供給する場合でも、9V 電池を接続したままにしないで下さい。ファンタム電源のオン / オフの際に発生するノイズ対策に役立ちます。

6 コントロール

PRESENCE：

アッパーハーモニクスやアタックを強調する際に使用します。クリーンでスムーズな高域のサウンドを設定したい場合は、このコントロールを低くして下さい。

DRIVE：

入力感度、および全体のゲイン量を調整します。真空管アンプのオーバードライブを再現します。

6 コントロール

BASS & TREBLE :

カットするだけのパッシブコントロールとは異なり、本機のアクティブトーンコントロールは、ユニティゲイン（12時）から±12dB カットまたはブーストします。この強力なEQセクションは固定周波数のミッドコントロールの必要性を効果的に減らし、「ミッドカット」と「ミッドブースト」を含む幅広いカーブを実現できます。

ミドル（中音域）の調節：中音域はあらかじめ設定されています。低音と高音をブーストすると、相対的にミッドレンジレベルが低音と高音の周波数レベルよりも低い「ミッド（750 Hz）カット」と同じ効果が得られます。低音と高音をカットすると、相対的な中音域のレベルが低音と高音の周波数レベルよりも高くなる「ミッド（750 Hz）ブースト」と同じ効果が得られます。

NOTE：全体的な出力レベルはEQ設定に応じて変化します。それを考慮してレベルを調節してください。

BLEND :

真空管シミュレーション回路と音源の信号（ドライ信号）のブレンドを決定します。通常、最大（100% SansAmp）に設定します。ただし、ピエゾピックアップを装備したアコースティック楽器などでの使用の際には、アコースティックな響きを残すためにドライ信号を混ぜ合わせる事が可能です。Blendが最小の際、真空管シミュレーション回路はバイパスされますが Bass、Treble、Level の各コントロールはアクティブのままです。

LEVEL :

1/4" フォン出力と XLR 出力の両方の出力レベルを調節します。

7 プログラミング

チャンネルをプログラミングする：

設定を配置したいチャンネルのフットスイッチを1回踏み込み選択します。各コントロールを好みに合わせ、そのチャンネルのフットスイッチを2回すばやく踏み込むとプログラミングが完了です。

プリセットポジションを確認する：

ノブを現在の位置から回すと、ロックが解除され、チャンネルインジケータLEDが点滅します。点滅が遅いほど、プリセットポイントから離れており点滅が速いほど、近くにありますが。プリセットポイントで、LEDは点滅をやめて点灯したままになります。

LAZY POT™:

ドライブとレベルコントロールに搭載された、急激な変化を防ぐセーフティ機能です。ドライブ、レベルノブをプリセットから変更した際、緩やかに音量/ドライブが変化します。この機能はプリセットを変更する時だけに動作します。EQコントロールはLAZY POT機能を搭載しておらず、プリセットから変更しても、即座に変化します。

BYPASS :

本機は3つのチャンネルのどれからでもバイパスモードに入ることができます。選択中のチャンネルのフットスイッチを1回押すと、バイパスモードになります。

7 プログラミング

BANK A / B[DELUXEのみ]：

1バンクあたり3つのプリセットを合計6つのプリセットにプログラムできます。楽器ごとに3つ、または1つの楽器に6つすべてを使用できます。各バンクの各チャンネルについても同じプログラミング手順でプログラムできます。フットスイッチを使ってバンクを切り替えると、対応するLEDが点灯し、どのバンクが選択されているかがわかります。

工場出荷状態への戻し方：

本機を工場出荷時の仕様にリセットするには、プリセット設定を再プログラムするか、チャンネル1と3のフットスイッチを同時に押しながら電源を入れます（アダプタを接続するか、バッテリーが取り付けられている場合はギターケーブルを接続します）。

8 EFFECT LOOP [DELUXEのみ]

外部エフェクトを接続してコントロールが可能です。FX SEND から外部エフェクターの入力へ接続し、外部エフェクターの出力からFX RETURN に接続します。コーラスやディレイなどの空間系をエフェクトループに挿入し、ディストーション/ワウペダルをベースと SansAmp の間に接続することをお勧めします。エフェクトループをオン/オフするには、Bank / FX フットスイッチをすばやく二回踏み込みます。

エフェクトループは、最後の設定状態を自動的に保存します。たとえば、プログラムを保存したときにエフェクトループがオンになっていると、そのプリセットを呼び出したときにエフェクトループが自動的にオンになります。演奏中にエフェクトループをオフすると、次回そのプリセットを呼び出したとき、エフェクトループは自動的にオフになります。

9 スピーカーシミュレーション

キャビネットを複数のマイクでマイキングした様なスムーズなサウンドを再現します。この機能で使用するキャビネットに悪影響を及ぼすことはありません。

※本機にはアンプのスピーカーアウト信号を入力することはできません。誤った接続を行うと本機やアンプ等周辺機器を破損する恐れがあります。

10 外部エフェクトの接続順

演奏テクニックのダイナミクスとニュアンスに対する高い反応性を損なわないために通常、ベース本体を本機に直接接続してください。

一般的な使用法として、
本機の前：ワウ、プリアンプ、コンプレッサー、ファズ、エンベロープフィルター等
本機の後：コーラス、ディレイ、EQ、ピッチシフター、リバーブ
をおすすめしますが、お好みに合わせて配置してください。

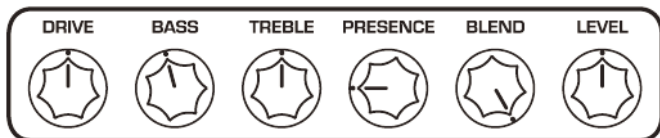
11 初期プリセット

本機は初期プリセットとして、工場出荷時に以下の3つのプリセットが設定されています。

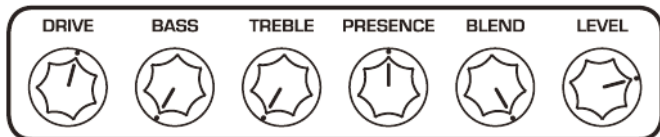
バンク	チャンネル1	チャンネル2	チャンネル3
A	Fat Tube	Flip Top	Flip Top
B	Slap	SVT®-style	Crimson-style

工場出荷時の仕様にリセットする方法は7.プログラミング内工場出荷状態への戻し方をご参照ください。

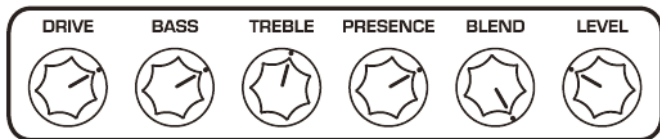
FAT TUBE



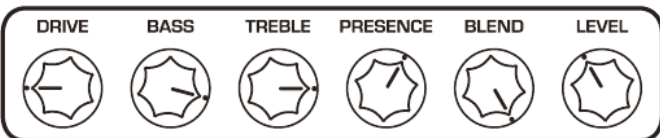
FLIP TOP



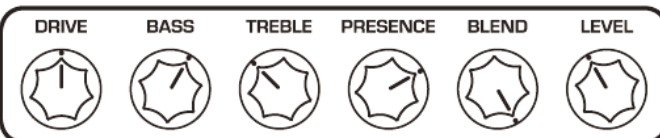
DISTORTED BASS



SLAP



SVT® STYLE



CRIMSON STYLE

